

**保土ヶ谷区地域子育て支援拠点事業
令和7年度重点目標評価結果・令和8年度重点目標**

| | |
|----------------------|--|
| 事業実施期間 | 令和7年4月1日～令和8年3月31日(5年度目／5か年度) |
| 事業の実施者 | 特定非営利活動法人ピアわらべ 保土ヶ谷区こども家庭支援課 |
| 事業目的 | <p>市民が安心して子どもを産み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保土ヶ谷区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営 |
| 事業の内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業) |
| 事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。 |

令和7年度重点目標の評価

| | |
|---------------|---|
| 令和7年度 重点目標 | 子どもを取り巻く大人、地域や企業などと連携し、子どものウェルビーイングを育む。 |
| 取組内容 | <p>①地域(企業も含む)の方も交えて、妊娠期の方、子ども、父親、母親、祖父母など家族で楽しむ機会をつくり、子どもの豊かな遊びと体験の機会の充実を図ります。</p> <p>②子育て支援連絡会の方向性を再確認するとともに、子育てサポートシステムの現状や「地域での預け預かり合いの大切さ」をエリア別子育て支援連絡会など地域の会議で伝え、預かり手を増やしていきます。</p> <p>③地域に住む学生や若い世代の人に、職業体験やボランティアなど子どもと関わる機会をつくっていきます。</p> |
| 取組の成果 | <p>① 家族参加型プログラム「はぴふぁみ」(はっぴーふぁみりー)を年24回、土曜日に開催。運動遊びや工作、地域の方との交流企画など等を実施し、569名の親子(祖父母、妊娠期の方含む)、49名の支援者が参加しました。平日来所が難しい父親層の参加も22.5%見られ、家族同士の自然な交流の場になる等、母親中心の利用から家族全体で関わる拠点への変化もありました。参加した養育者からは「子どもが楽しそうに身体を動かしていたので、おうち遊びにも導入したい」「子どもが自分で遊びを考えて楽しむ姿を見て、遊び方は無限にあることがわかった」などの声があり、「遊びに来る場所」から「体験・学び・家族参加の場」「子どもの創造力や生きる力の基盤をはぐくむ遊びの場」へ広げることが出来ました。サテライトでは、野遊びの会や消防団など外部団体とつながり、地域資源を生かしたプログラムを展開しました。</p> <p>② 子育て支援連絡会を実施し、今後の取組みの方向性について検討を重ねてきました。地域ケアプラザエリア別子育て支援連絡会や区連合町内会長連絡会において、子育てサポートシステムの現状や「地域での預け預かり合いの大切さ」を伝え、子どもの預かり手の確保に努めました。掲示板等を活用した広報を行った結果、預かり手の増加、活動数の増加につながり、子どもが養育者以外の方にかわいがられて育つ体験を推進していくことが出来ました。(活動数は5年間で3倍に増加)</p> <p>③ ひろばで中学の職業体験や高校、大学生のボランティア活動の受入れを行うとともに、地域の中学校に出向き、近隣区の地域子育て支援拠点、主任児童委員と共催で「ふれあい赤ちゃん教室」を開催。学生からは、子どもと関わる仕事に興味を持った、命の尊さを感じた、妊婦体験から大変さを知ったなどの感想が寄せられました。養育者からは育児の先の見通しやモチベーションになったなどの声があり、双方に効果がありました。 また、聖ヶ丘保育専門学校の空き教室に開設した出張ひろば「まめころ」では、学生の受入れを行い、親子と関わる機会を提供することが出来ました。</p> |
| 取組の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の方や子育てを応援する方など、幅広い対象者に「はぴふぁみ」などのプログラムや拠点を知り利用してもらうために、拠点情報はじめ、地域の子育て情報を届けるアプローチが必要です。 ・子育てサポートシステムについては、預かり手の増加につながる取組を進めてきましたが、需要に対して十分とは言えない状況です。「地域で支えあいながら安全に預かり合いができる仕組み」として継続していくために、制度理解を促進するとともに、預け手と預かり手双方への啓発が必要です。 ・子育て支援連絡会などの場を通じて、区内の子育て支援に関わる関係機関・者のネットワークをさらに強化し、切れ目のない支援体制を構築する必要があります。 |

次年度重点目標

| | |
|---------------|---|
| 令和8年度 重点目標 | <p>①必要な情報が必要な方に届くよう情報収集・発信のしくみを整えていきます。</p> <p>②地域の中で子育てをあたたく見守るネットワークづくりを推進します。</p> |
| 取組内容 | <p>① ・地域の子育て支援に関する情報を収集し、多様な媒体を活用し発信することで、必要な情報を入手できるようにします。</p> <p>② ・地域ケアプラザ・育児支援センター園、区役所、地域子育て支援拠点が事務局として連携し、地域の子育ての現状や関係機関・者との情報共有の場として子育て支援連絡会を開催していきます。</p> <p>・学校(中学・高校・大学等)とつながり、学生が子育て支援の場に訪れ、親子と関わる事が出来る機会を提供していきます。</p> |